

## 教科横断で学びを深める

### 「ブラック・ライフズ・マター・プロジェクト」

高校 1年  
国語総合・世界史 A  
コミュニケーション英語 I  
資料の活用

ねらい

○自分の意見を持つために、多様な情報に触れ複数の視点を持つことの重要性を知り、そのために図書館が活用できることを知る。

## 学 習 展 開 . . . . .

ブラック・ライフズ・マター運動を通して、人種差別の存在する世界の現状を知り、その世界で生きるみずからの在り様について考える。

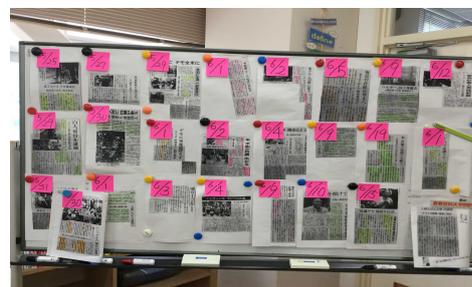
《各教科の主な学習活動》

- ①国語：「ももたろう」（昔話）と、「桃太郎」（芥川龍之介）を読み比べ、その違いから芥川龍之介の意図について考える。
- ②世界史 A：大航海時代とラテンアメリカについて植民地支配の背景や歴史を学ぶ。
- ③コミュニケーション英語 I：  
ジャマイカの歴史、アメリカの黒人の生活について学ぶ。新聞記事の要約活動を通してブラック・ライフズ・マター運動について知る。
- ④合科：ブラック・ライフズ・マター運動と日本の「私」のつながりについて考える。



↑ 新聞要約発表の様子

↓ 新聞記事から運動の広がりを知る



## ◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は、新聞 3 紙（朝日・毎日・読売）に掲載されたブラック・ライフズ・マター運動に関する記事を収集し、教員に提示する。
- 図書館での発表の際に使用する教具や、昔話「ももたろう」絵本、芥川龍之介著の「桃太郎」について資料を準備する。
- 新聞要約の際には T3 として支援を行い、まとめの際には図書館の有用性について説明する。

## ★指導のポイント

- ◆ 新聞要約の際には語句の確認のため国語辞典を準備しておく。
- ◆ 新聞記事は 1 紙ではなく複数紙提示することで、同じ媒体でも相違があることを気づかせる。
- ◆ 現在進行形の出来事を、新聞を通して学ばせることで、問題をより身近に捉えさせる。

## 資料

- ・ 朝日、毎日、読売新聞の各朝刊よりブラック・ライフズ・マター関連の記事  
(5月29日～6月30日付)
- ・ 芥川龍之介全集第七巻（岩波書店、1978） ・ 「ももたろう」絵本複数冊